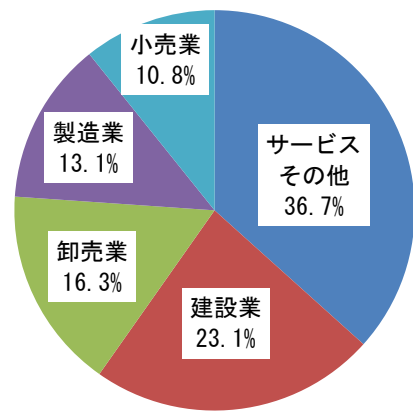


# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年6月）

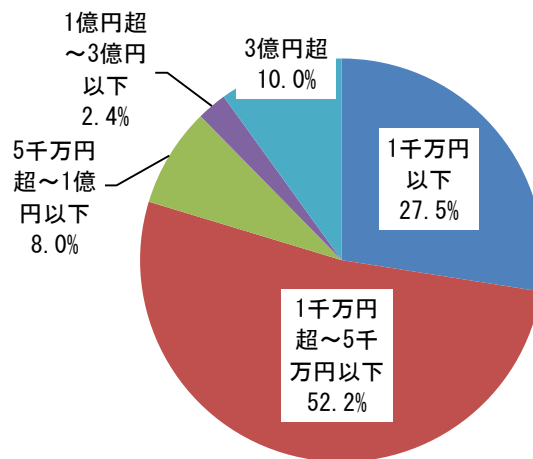
## <調査概要>

1. 調査期間 平成29年6月15日（木）～7月7日（金）
2. 調査対象 札幌商工会議所定期景気調査 登録企業619社
3. 回答状況 251社（回答率40.5%）
4. 調査項目 ①定例調査…6月の景況感（売上・採算等）と先行き見通しについて（D I 値 [※下記参照] を集計）  
②付帯調査…平成29年度の所定内賃金の動向について
5. 回答企業属性

### 【業 種】



### 【資本金】



## ※D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況など、各項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

$$\text{業況D I} = \frac{(\text{好転} - \text{悪化}) \times 100}{(\text{好転} + \text{不変} + \text{悪化})}$$

※先行き見通しD I = 当月(6月)と比べた、向こう3ヶ月(7月～9月)の先行き見通し

# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年6月）

## ① 6月の景況感と先行き見通しについて

### （1）6月の業況D I と先行き見通しについて

●6月の業況D I は▲9.3となり、前月とほぼ横這いとなった。（※5月D I ▲9.4）

産業別では、建設業・卸売業で改善したが、製造業・小売業・サービスその他では悪化し、サービスその他においてはマイナスに転じた。

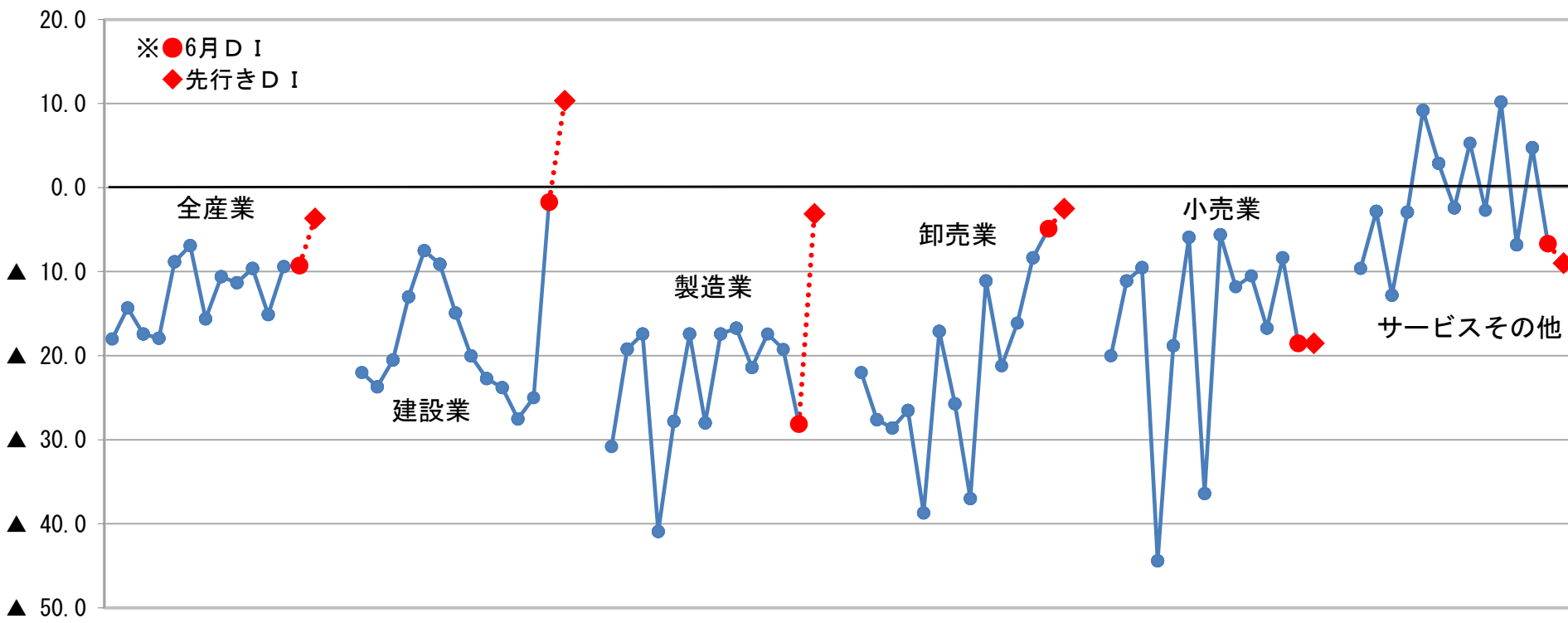
➡ 建設業（5月 ▲25.0 → 6月 ▲1.7）、卸売業（▲8.3 → ▲4.9）

➡ 製造業（▲19.2 → ▲28.1）、小売業（▲8.3 → ▲18.5）、サービスその他（4.8 → ▲6.7）

●向こう3ヶ月（7月～9月）の先行き見通しD I は▲3.7となり、6月から5.6ポイント改善の見通し。

産業別では、建設業・製造業・卸売業で改善の見通しだが、サービスその他では悪化の見通し。小売業は横這いの見通し。

業況D I の推移（平成28年6月以降）



# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年6月）

## （2）6月の売上D I と先行き見通しについて

●6月の売上D I は▲3.2となり、前月から3.4ポイントの増加となった。（※5月D I ▲6.6）

産業別では、建設業・製造業・卸売業で増加し、卸売業においてはプラスに転じた。一方で、小売業・サービスその他では減少した。

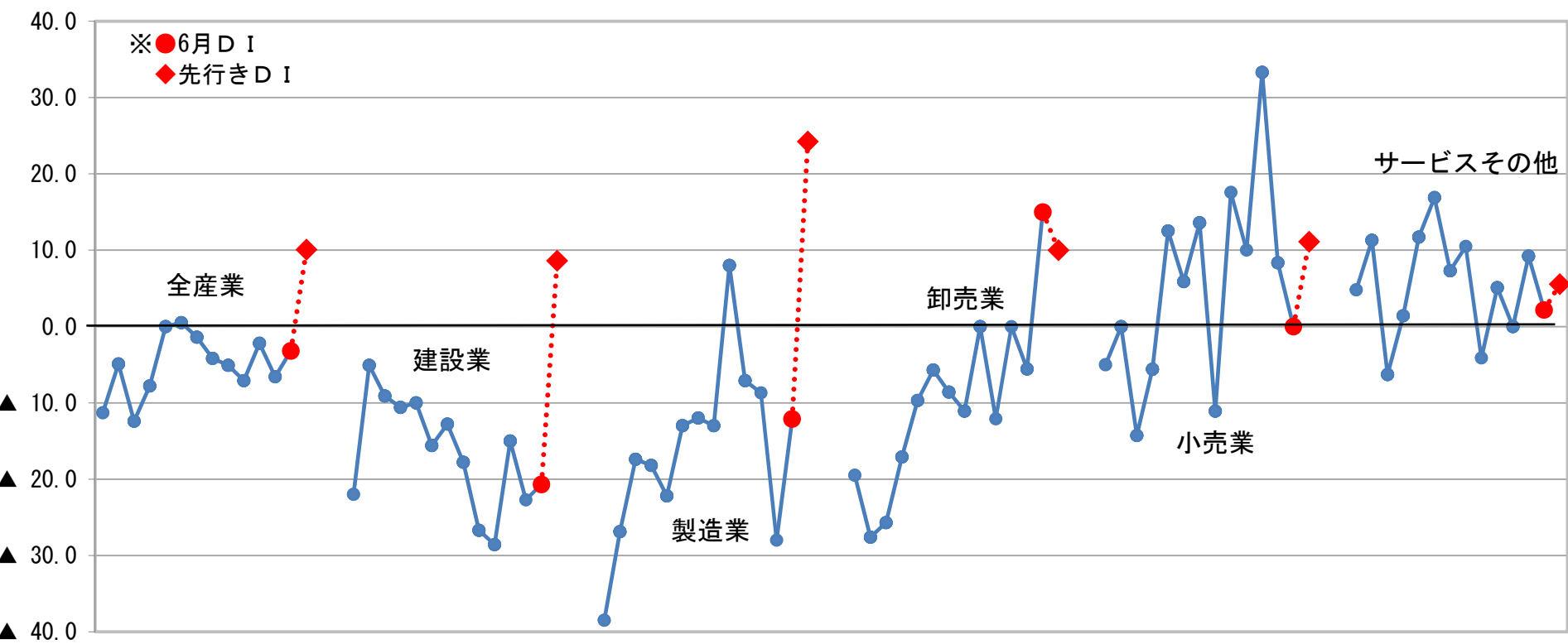
➡ 建設業（5月 ▲22.7→6月 ▲20.7）、製造業（▲28.0→▲12.1）、卸売業（▲5.6→15.0）

➡ 小売業（8.3→0.0）、サービスその他（9.2→2.2）

●先行き見通しD I は10.1となり、6月から13.3ポイント増加の見通し。

産業別では、建設業・製造業・小売業・サービスその他で増加の見通しだが、卸売業では減少の見通し。

売上D I の推移（平成28年6月以降）



# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年6月）

## （3）6月の採算（経常利益）D I と先行き見通しについて

●6月の採算D Iは▲6.8となり、前月から1.3ポイントの悪化となった。（※5月D I ▲5.5）

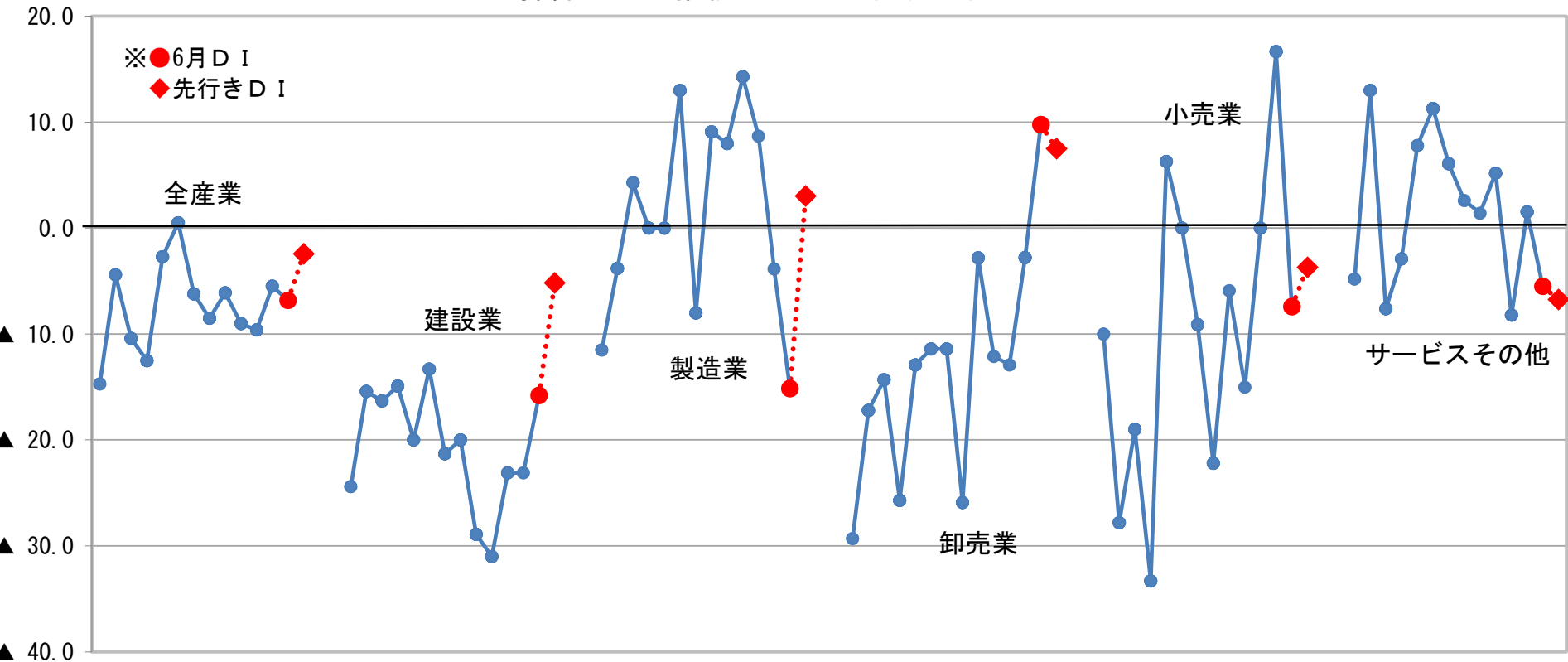
産業別では、建設業・卸売業で改善し、卸売業においてはプラスに転じた。一方で、製造業・小売業・サービスその他では悪化し、小売業・サービスその他においてはマイナスに転じた。

- ➡ 建設業（5月 ▲25.0→6月 ▲15.8）、卸売業（▲2.8→9.8）
- ➡ 製造業（▲3.8→▲15.2）、小売業（16.7→▲7.4）、サービスその他（1.5→▲5.5）

●先行き見通しD Iは▲2.4となり、6月から4.4ポイント改善の見通し。

産業別では、建設業・製造業・小売業で改善の見通しだが、卸売業・サービスその他では悪化の見通し。

採算D Iの推移（平成28年6月以降）



# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年6月）

## （4）6月の仕入単価D I と先行き見通しについて

●6月の仕入単価D I は▲30.5となり、前月から2.8ポイント増加で仕入単価が「上昇」と回答した企業の割合が減少した。（※5月D I ▲33.3）

産業別では、卸売業・サービスその他で増加したが、建設業・製造業・小売業では減少した。

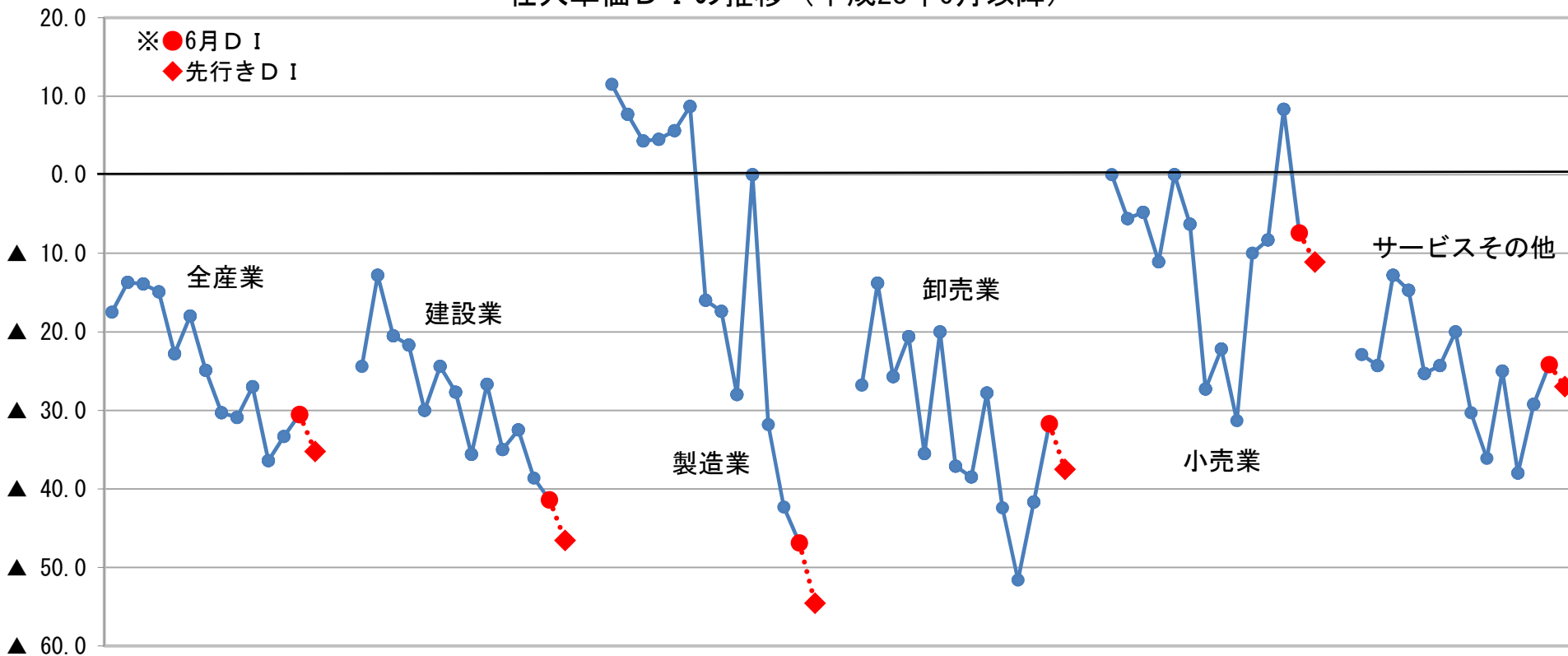
▲ 卸売業（5月 ▲41.7→6月 ▲31.7）、サービスその他（▲29.2→▲24.2）

▼ 建設業（▲38.6→▲41.4）、製造業（▲42.3→▲46.9）、小売業（8.3→▲7.4）

●先行き見通しD I は▲35.2となり、6月から4.7ポイント減少の見通し。

産業別では、全業種で減少の見通しとなった。

仕入単価D I の推移（平成28年6月以降）



# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年6月）

## （5）6月の従業員D I と先行き見通しについて

●6月の従業員D I は34.7となり、前月から13.8ポイントの増加で人手不足感が強まった。（※5月D I 20.9）

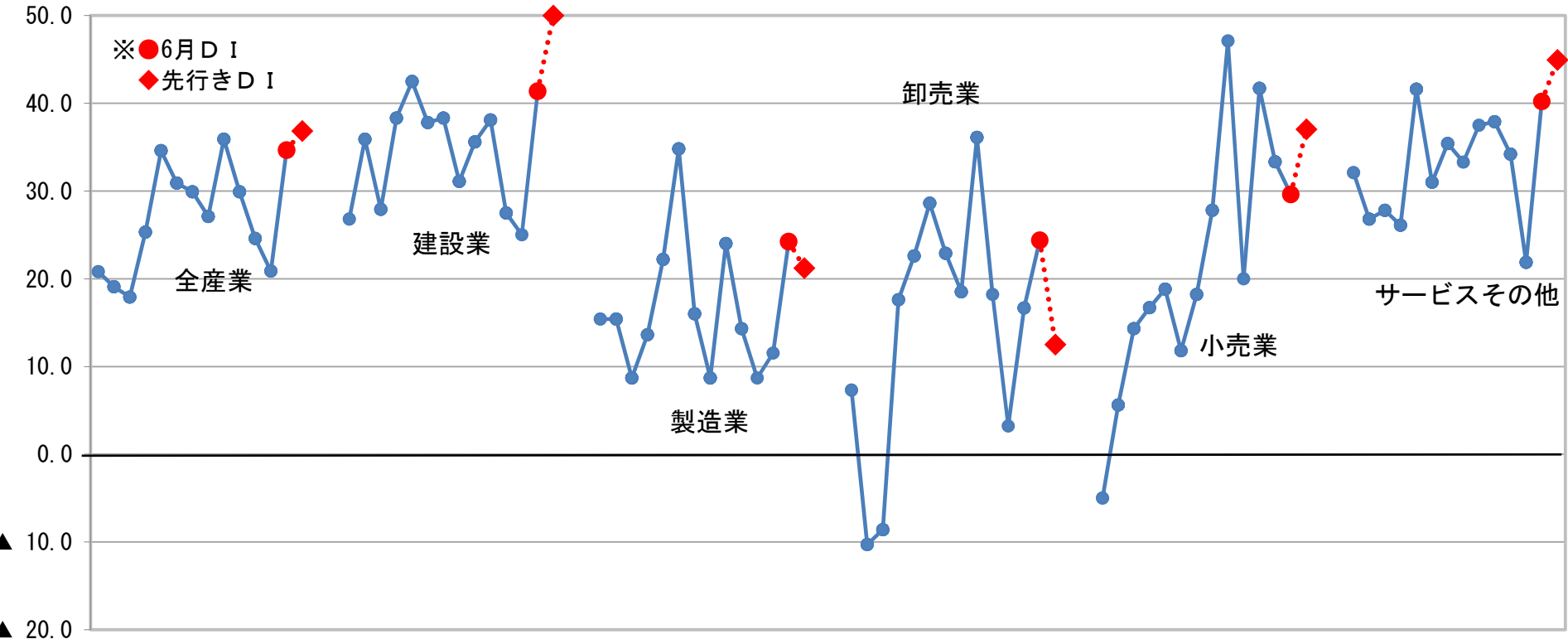
産業別では、建設業・製造業・卸売業・サービスその他で人手不足感が強まった一方、小売業では人手不足感が弱まった。

- ▲ 建設業（5月 25.0 → 6月 41.4）、製造業（11.5→24.2）、卸売業（16.7→24.4）、サービスその他（21.9→40.2）
- ▼ 小売業（33.3→29.6）

●先行き見通しD I は36.8となり、6月から2.2ポイントの増加で人手不足感が強まる見通し。

産業別では、建設業・小売業・サービスその他で人手不足感が強まる見通しとなった一方、製造業・卸売業では人手不足感が弱まる見通しとなった。

従業員D I の推移（平成28年6月以降）



# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年6月）

## （6）6月の資金繰りD Iと先行き見通しについて

●6月の資金繰りD Iは0.0となり、前月から2.7ポイントの悪化となった。（※5月D I 2.7）

産業別では、小売業で改善しプラスに転じた。一方で、建設業・製造業・卸売業・サービスその他では悪化し、サービスその他においてはマイナスに転じた。

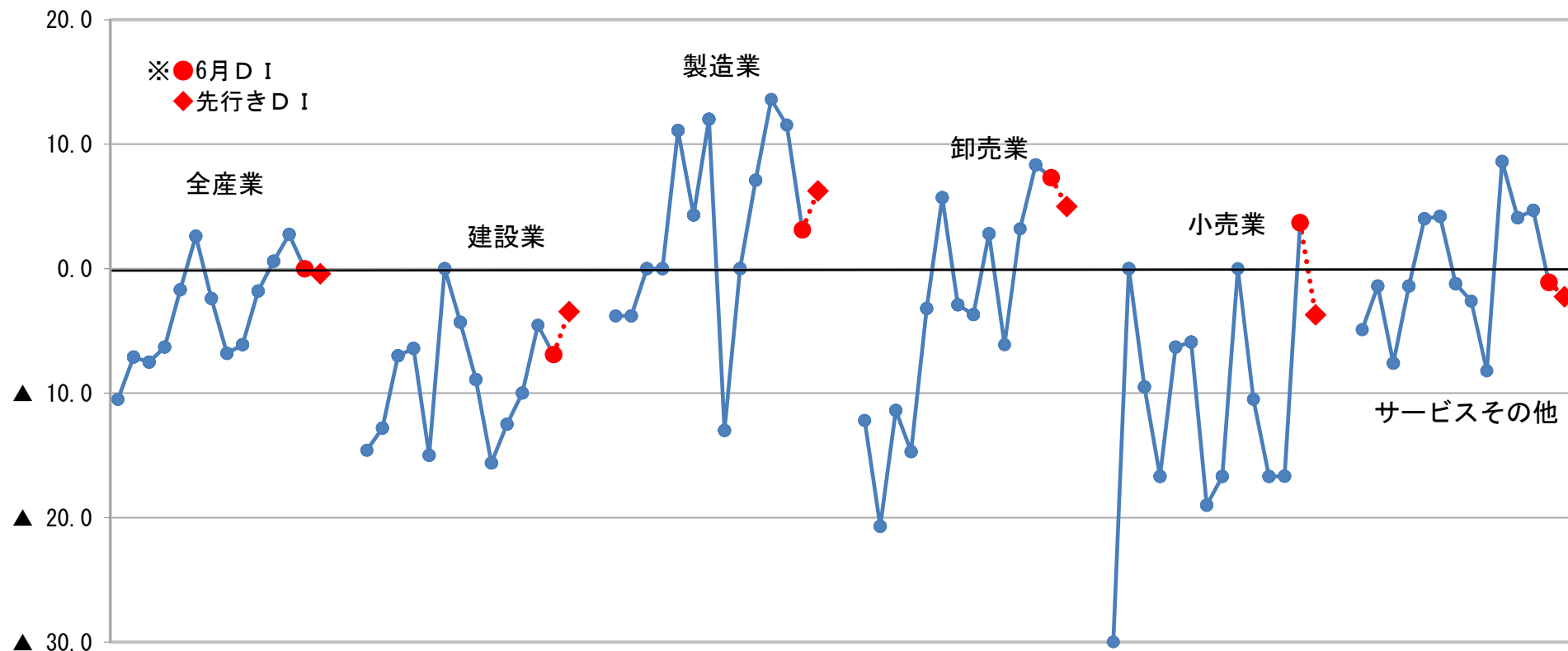
▲ 小売業（5月 ▲16.7→6月 3.7）

▲ 建設業（▲4.5→▲6.9）、製造業（11.5→3.1）、卸売業（8.3→7.3）、サービスその他（4.7→▲1.1）

●先行き見通しD Iは▲0.4となり、6月から0.4ポイント悪化の見通し。

産業別では、建設業・製造業で改善の見通しだが、卸売業・小売業・サービスその他では悪化の見通し。

### 資金繰りD Iの推移（平成28年6月以降）



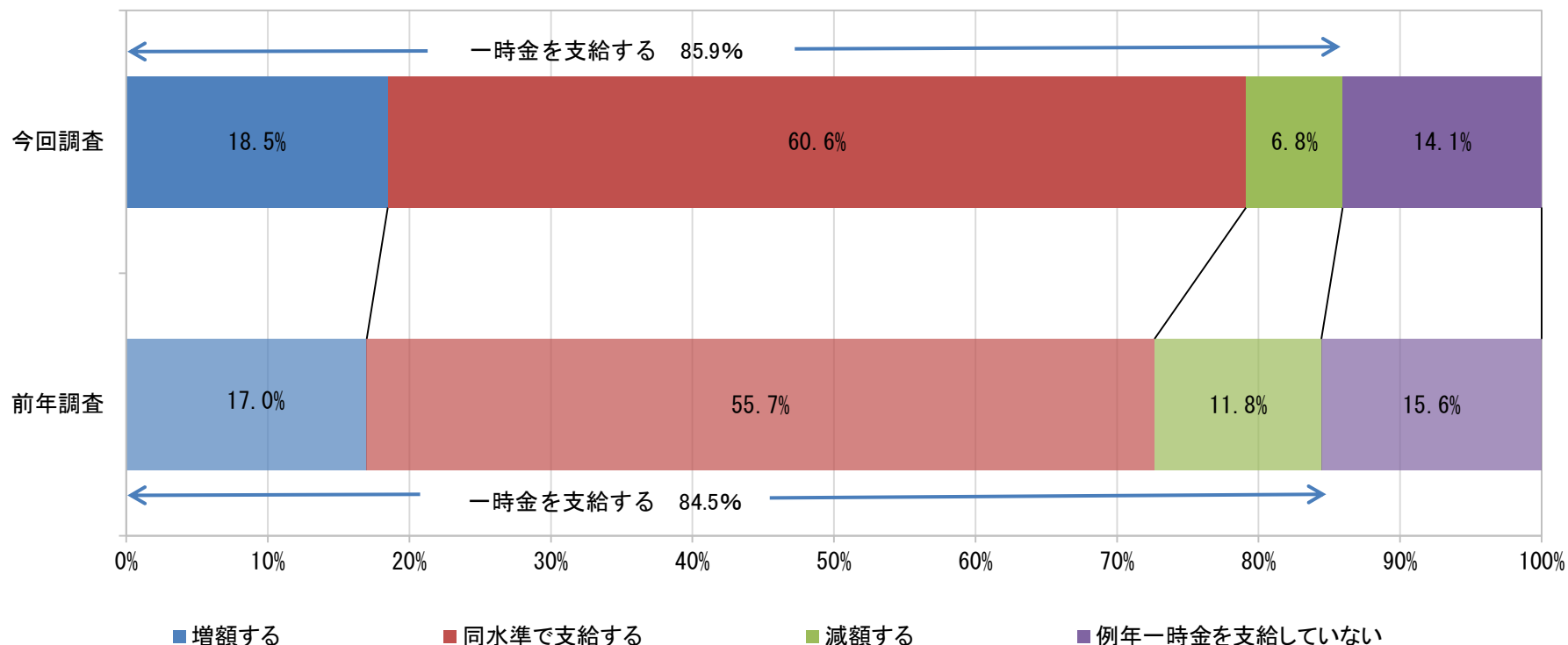
# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年6月）

## ②平成29年度の所定内賃金の動向について

### （1）平成29年夏の一時金の動向について

●平成29年夏の一時金を「支給する」と回答した企業は85.9%と、昨年調査時と比較して1.4ポイント増加した。「支給する」と回答した企業のうち、昨夏より「増額する」と回答した企業は18.5%、「同水準で支給する」と回答した企業は60.6%と、昨年調査時と比較してそれぞれ1.5ポイント、4.9ポイント増加した。一方で、「減額する」と回答した企業は6.8%と、昨年より5.0ポイント減少した。

#### 【昨夏と比較した今夏の一時金の動向】





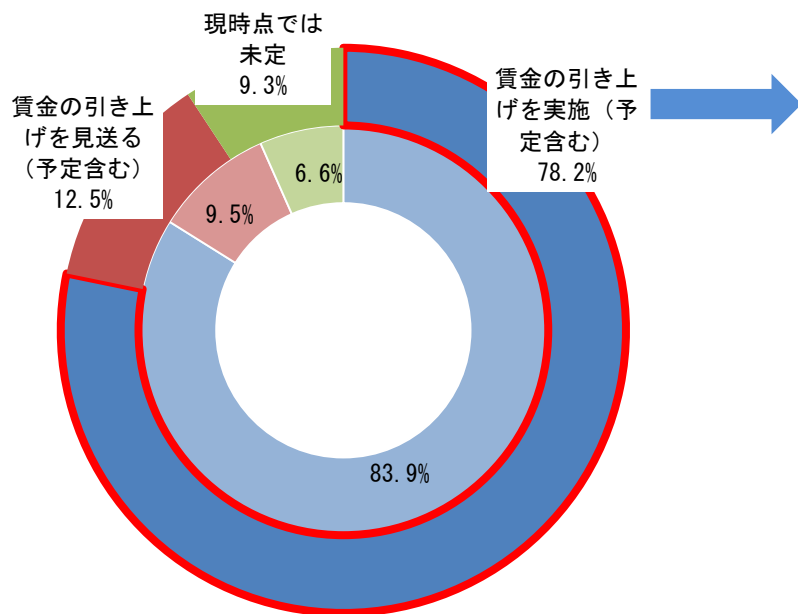
# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年6月）

## （2）平成29年度の所定内賃金の動向について

- 「賃金の引き上げを実施した」と回答した企業は78.2%と、昨年調査時と比較して5.7ポイント減少した一方、「賃金の引き上げを見送る」、「現時点では未定」と回答した企業は昨年よりそれぞれ3.0ポイント、2.7ポイント増加した。  
賃金引き上げの内容としては、「定期昇給を実施した」・「手当の新設・増額」・「一時金を増額した」と回答した企業が昨年調査時と比較してそれぞれ1.2ポイント、12.7ポイント、3.4ポイント減少した一方、「ベースアップを実施した」と回答した企業は昨年より7.8ポイント増加した。

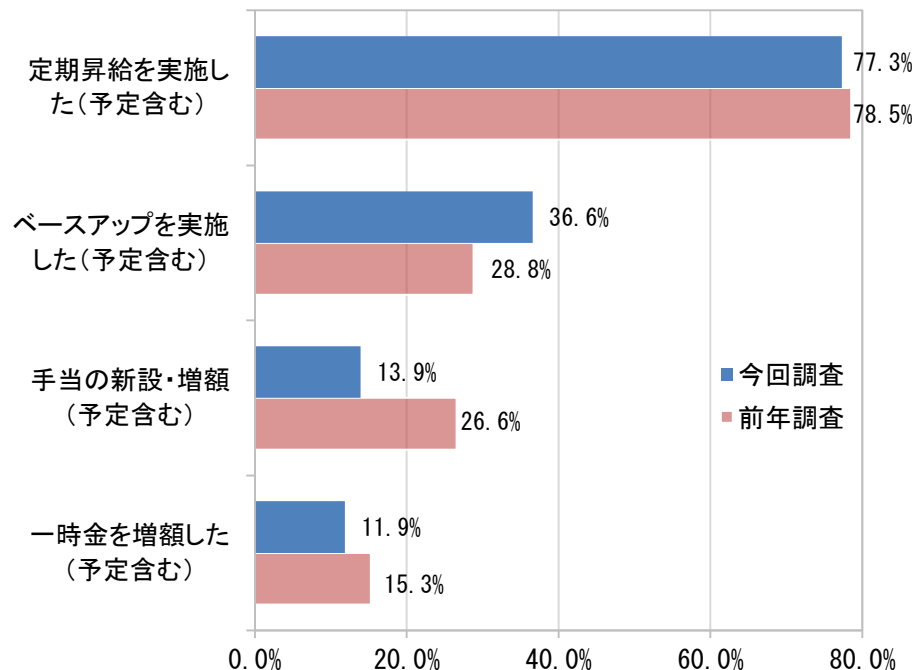
### 【平成29年度の所定内賃金の動向】

※円グラフ外側が今回調査、内側は前年同月調査



### 【賃金引き上げの内容】

（※複数回答）

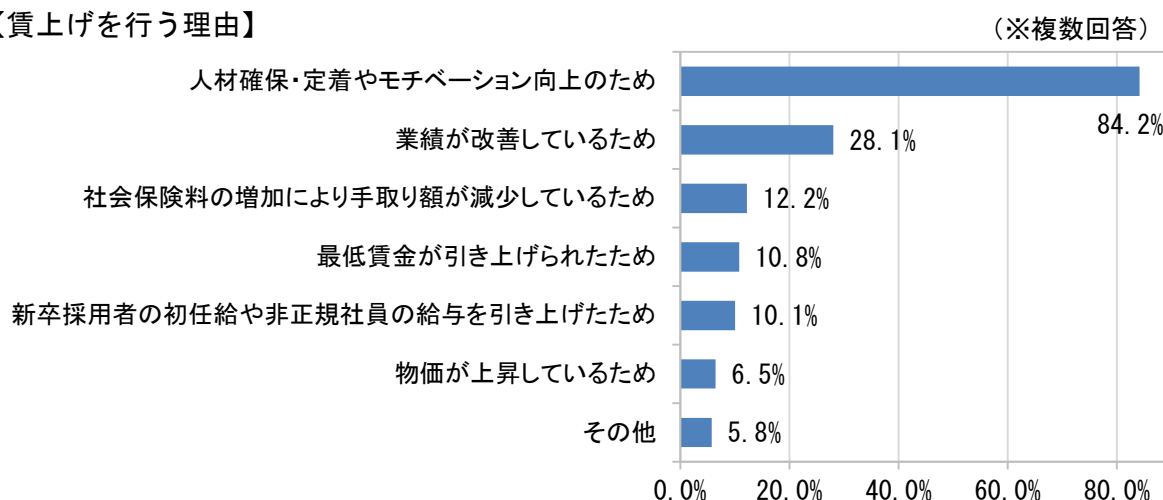


# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年6月）

## （2）平成29年度の所定内賃金の動向について

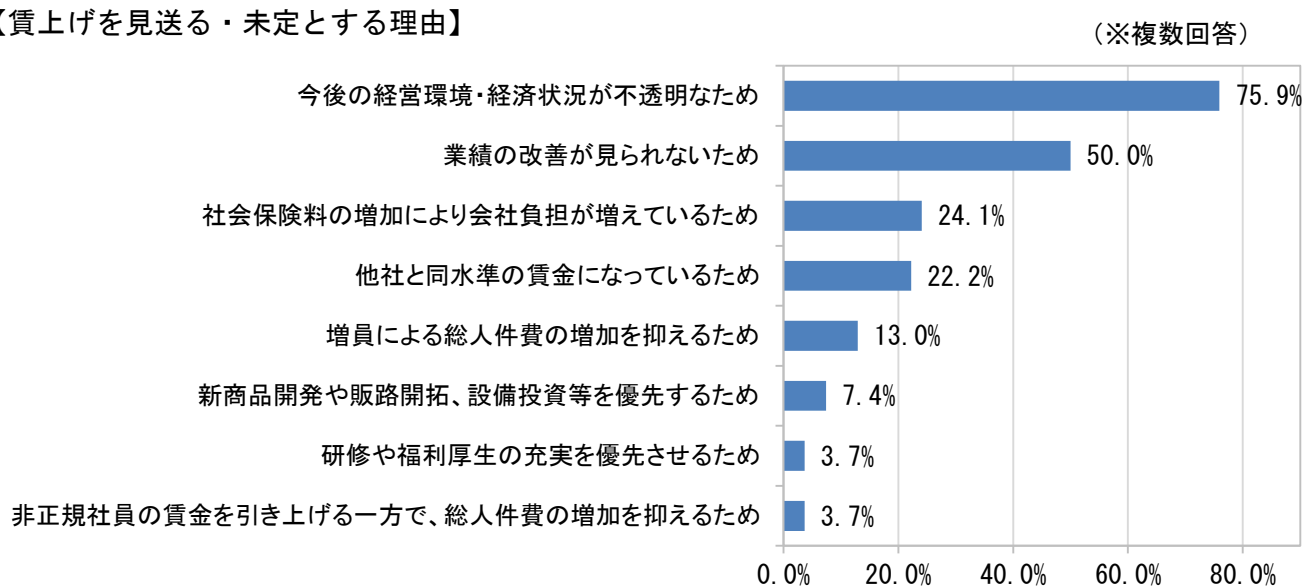
●賃上げを行う理由として、「人材確保・定着やモチベーション向上のため」と回答した企業が84.2%と最も多く、次いで「業績が改善しているため」が28.1%、「社会保険料の増加により手取り額が減少しているため」が12.2%となった。

### 【賃上げを行う理由】



●賃上げを見送るもしくは未定とする理由として、「今後の経営環境・経済状況が不透明なため」と回答した企業が75.9%と最も多く、次いで「業績の改善が見られないため」が50.0%、「社会保険料の増加により会社負担が増えているため」が24.1%、「他社と同水準の賃金になっているため」が22.2%となった。

### 【賃上げを見送る・未定とする理由】



# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年6月）

## ③ 会員企業の声

### （1）建設業

●官・民ともに、需要は堅調に推移しているが、技能者及び技術者の不足は一層顕著となっている。資材の上昇もあり、利潤の確保はなかなか容易ではない。

土木建築工事業

●働き方改革等により時間外労働の見直しや削減を迫られているが、建設業ではコアタイム内で済まないケースが多々あり、現状では無理な環境である。また、新規求人を毎年募集しているが、応募が少なく尚且つ内定を出しても辞退される。他業種と比べると依然として「3K」であり、建設業の労働環境の改革が今にも望まれると感じる。

冷暖房設備工事業

●当社では、技術者及び技能工が不足して入札に参加できない場合もある。高齢になり退職者が出て、若い技術者・技能工に成り手がいない。当社では、専門学校を卒業していなくても若い人で意欲のある人を自社で育てている。

土木工事業

●好況に伴って、慢性的な人材不足となって久しい。そのため、外注・下請業者の人員も活用し一つひとつの現場をなんとかこなしている状況である。社内の新しい人材採用に力を入れてはいるが、まだまだ足りていない。

識別工事業

### （2）製造業

●地域経済や地域産業の新たな動きや弊社事業特性上、外食産業、ガソリンスタンドといった特定業種向けの売上比率が高く、景気動向というより個別企業及び石油元売りの投資計画動向に大きな影響を受けている。それ以外の地域の中小企業においては、投資の優先順位が生産性向上、コスト削減に伴う設備投資が優先され、単純な老朽化による更新需要は非常に厳しい状況が続いている。

電気機械器具卸売業

●工場は多忙を極めているが、この状態がいつ途切れるか不安でもある。年間通して安定的に稼働できることが生産性やコスト面において効率的であることから、先物の受注量をいかに確保するかが営業の重要課題である。

建設産業機械附帯品  
（帆布製品製造業）

●機械・設備の老朽化が深刻な問題ではあるが、設備投資するほど先の見通しがたっていないため苦勞している。

金属製品製造業

# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年6月）

## （3）卸売業・小売業

●道内全般的に大型小売店ショッピングモールの進出が相次ぎ、中小企業や小規模事業者の売上がじり貧に追いやられており、従来通りのやり方だと共倒れしかねない。如何にして売り上げを伸ばすか、大きな課題である。

包装用品卸売

●若年層の支出・購買対象が多様化し、衣料の業績が悪化している。リアル店舗のあり方やネット等の販売手段を広く準備しなければならず、スタッフの教育や専門知識分野のスタッフ等、設備も含め常時改革の必要性に迫られている。

織物・衣服・身の回り品  
小売業

●働き方改革がメディアでも頻繁に取り上げられており、中小企業においては厳しい面も多々あるが、業務改善・生産性向上の大きな転換点と前向きに捉えている。

学生衣料の販売

## （4）サービスその他

●既存取引先の動きが鈍く売り上げが伸びない。新規開拓は運賃を下げないと参入できないので、採算が合わない。人件費や安全管理費でコスト増になっているので、原油価格上昇等外部要因が大きい。

一般貨物運送業

●主に官公庁のコンサル業務を主体としているが、近年プロポーザル方式の入札が多くなってきていると共に大手総合コンサルタントが参入してきていることから、技術提案の評価点で負けてしまうので、苦戦を強いられている。

建設コンサルタント

●人材不足は今後も解消の見込みが無い。求人に経費が嵩み、なおかつ人材を確保出来ず、新規の営業にも影響が出ている。

総合ビルメンテナンス業

●将来的に雇用状況が厳しくなる中、労働時間や有給消化なども含めた賃金・退職制度の見直しが必要である。今後はさらなる収益力の向上を目指すべき。

物品賃貸業

●薬価改定のたびに苦しい状況になっているが、外に目を向けて事業を行えば取り戻せる部分も多々あるので、他業種と連携をとりながら新しいことにチャレンジしている。

調剤薬局